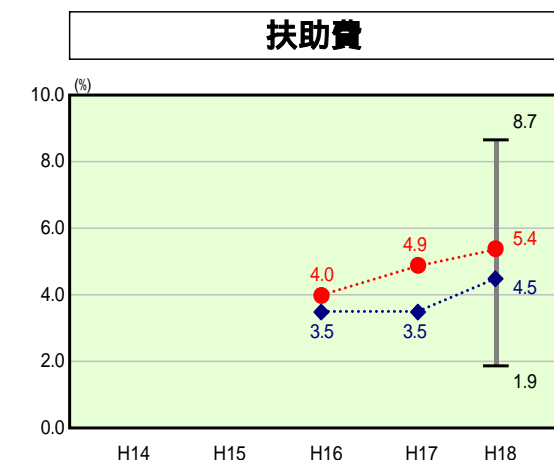
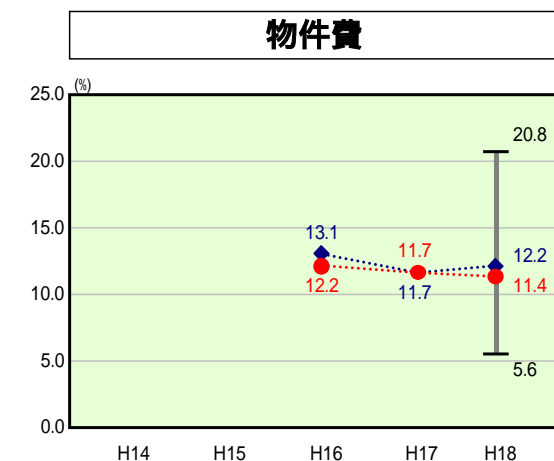
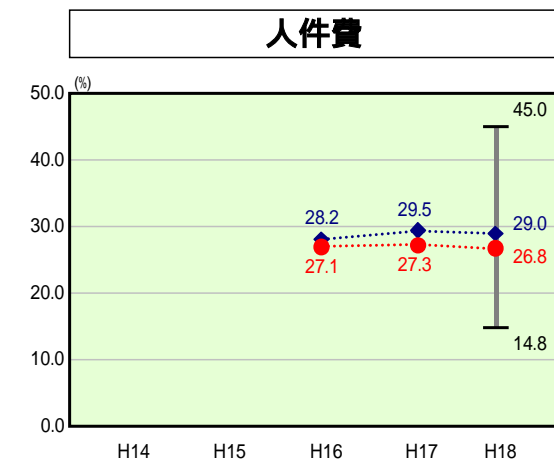
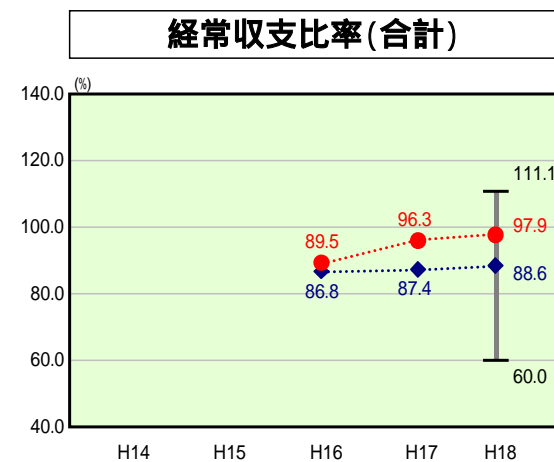


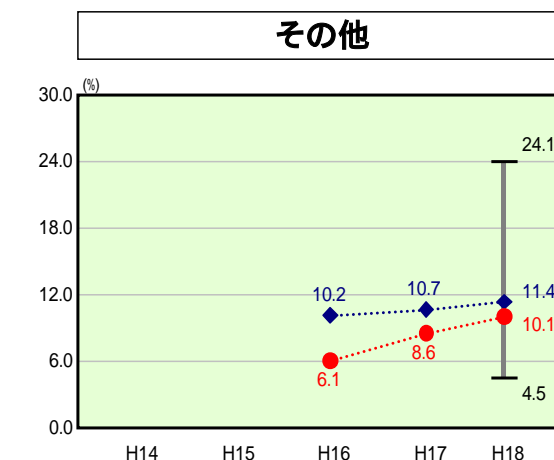
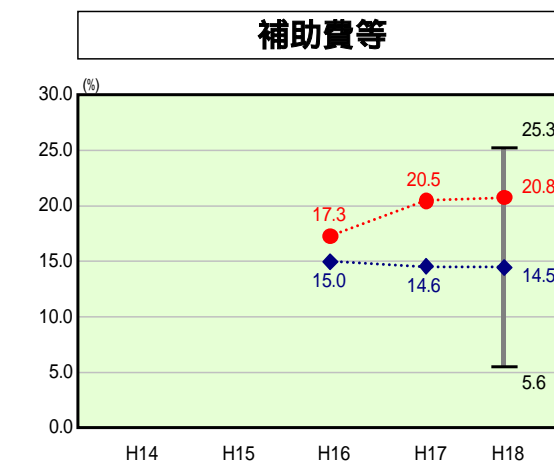
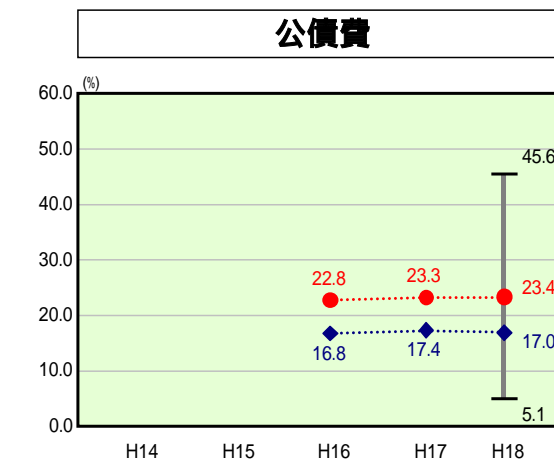
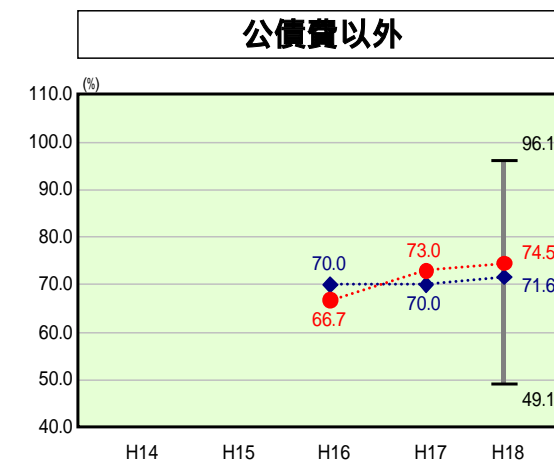
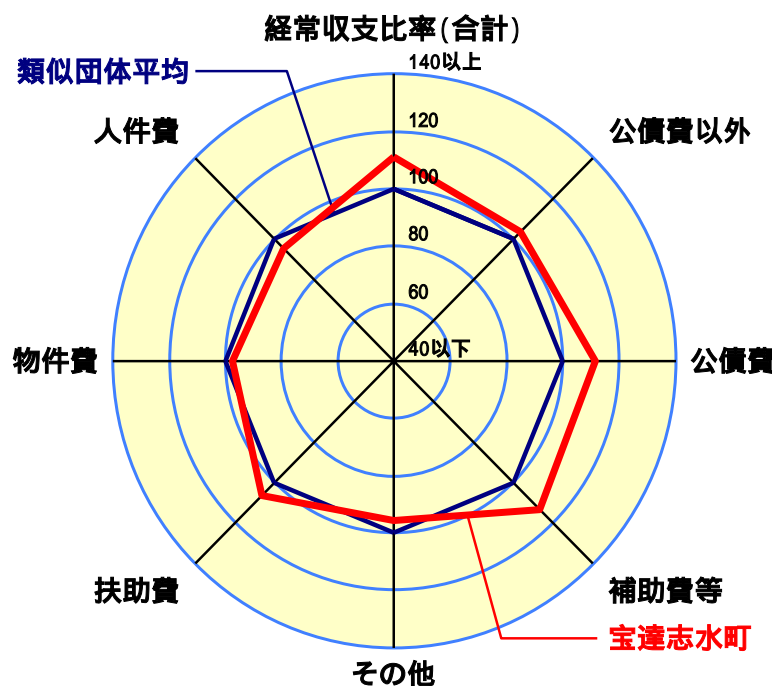
歳出比較分析表(平成18年度普通会計決算)

石川県 宝達志水町

経常収支比率の分析



人口	15,649人(H19.3.31現在)
面積	111.68 km ²
歳入総額	8,576,573千円
歳出総額	8,457,361千円
実質収支	71,528千円



- 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均値より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている。)
- 当該団体の八角形が平均値の八角形より内側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。
- 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

物件費：物件費が類似団体平均に比べ低くなっているのは、事務経費全般の節減を図っているからである。今後も毎年度5%を削減目標とするなど具体的な目標を定め、節減を図る。

扶助費：扶助費に係る経常収支比率が類似団体平均を上回り、かつ上昇傾向にある要因としては児童福祉経費や対象者拡充による医療給付費の増が挙げられる。今後は、受益者負担の見直しなどを進め、財政を圧迫する上昇傾向に歯止めをかけるよう努める。

補助費等：補助費等に係る経常収支比率が類似団体平均を上回っているのは、一部事務組合への分担金の増加や企業会計への繰出金が多額になっているためである。今後は、企業会計の建設事業計画の見直しや受益者負担の原則に基づく料金の改定などを検討し、繰出金の削減に努める。

公債費：近年、合併関連や過去の大型整備事業により、地方債の元利償還金が膨らんでおり、公債費に係る経常収支比率は類似団体平均を6.4%上回っている。公債費のピークは平成22年度になると見込まれ、それまでは非常に厳しい財政運営となることが予想される。そのため、新規地方債の発行額を償還額以内とするなど抑制に努め、地方債残高の縮減を図る。

普通建設事業費：人口1人当たり決算額は類似団体平均を大幅に上回っているが、これはH16年度から実施した合併関連の大型整備事業によるものである。今後は、大型事業の終了に伴い、来年度以降の普通建設事業費は減少する見込みである。